

サビイロクワカミキリ

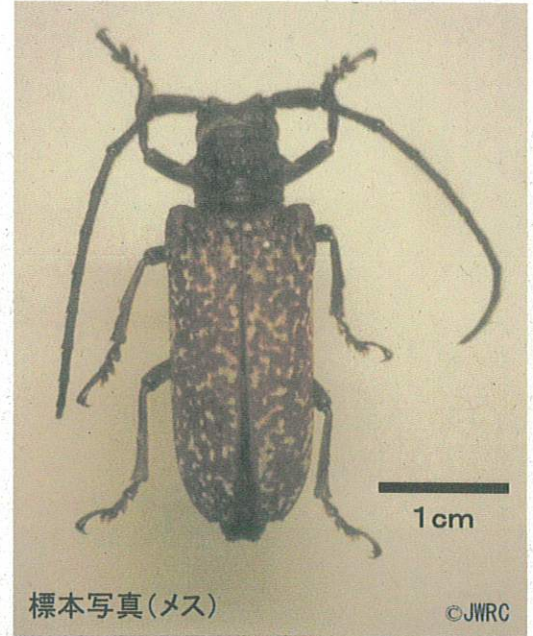
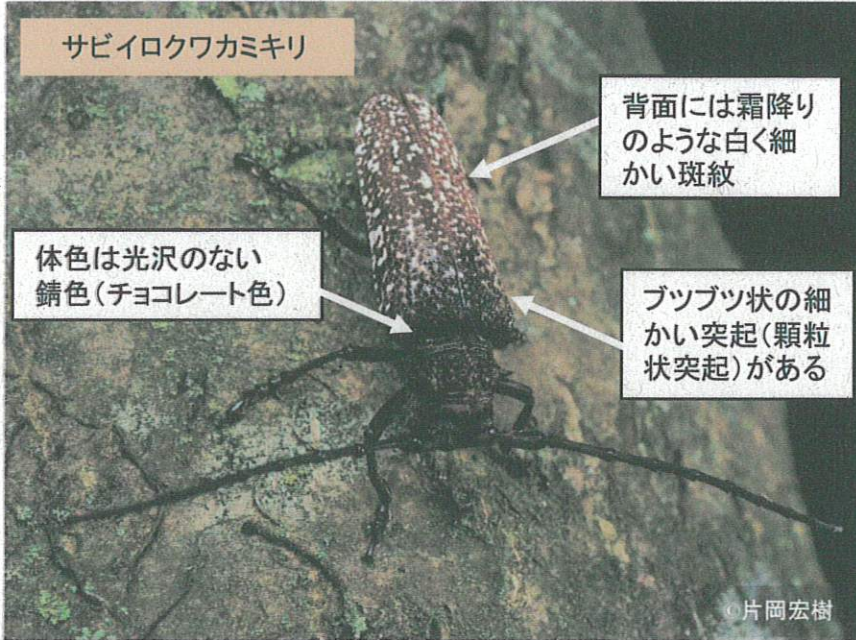
分類: コウチュウ目カミキリムシ科クワカミキリ属

和名: サビイロクワカミキリ

学名: *Apriona swainsoni*

原産地と分布: インド、ミャンマー、カンボジア、タイ、ベトナム、ラオス、
中国、朝鮮半島など(移入分布: 中国は国内移入による侵入地域あり、日本)

形態的特徴: オスは体長26.4mm~33.6mm、メスは体長33.8mm~39.7mm。頭部には中央に縦溝があり、複眼は暗褐色で大きく目立つ。オスの触角は体よりやや長く、メスの触角は体よりやや短い。成虫の体色はサビ色で背面に白い斑点があり、上翅基部には顆粒状の突起がある。



サビイロクワカミキリの産卵槽(産卵マウンド)
産卵槽は樹幹に成虫の分泌物で塗り固められた円丘を形成する特徴を持つ。



サビイロクワカミキリの排出孔
幼虫の排出孔は1か所で繊維状の木屑を出す。



類似した種との識別点:
国内にはクワカミキリ等、同属の在来種3種が分布するが、上翅斑紋の特徴から容易に識別できる。

特記事項: 既に、日本国内において街路樹や市街地等に植栽されているイヌエンジュ、エンジュへ加害し、枯損させる事例が確認されている。街路樹等の植栽樹が加害されることで、景観へ悪影響を及ぼす他、市街地での公共の場において被害木の枯損や落枝等による人への被害が発生する危険性もある。